

琉球・沖縄  
年中行事

？なんでも！  
Q&A

分骨・返骨について



●Answer  
沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職  
帰依 龍照 (きえ りゅうしょう)

**Q** 誰にも内緒の話です。32年前、オヤジの骨をポケットに入れてしまいました。今年、墓を直しました。その時、一緒に壺に返していいでしょうか？長男が体をバラバラにしてみましたので、オヤジのタタリが怖いのです。

(Y村Tさん)

**A** Tさん、お父さんのことをとても尊敬されているのですね。誰にも内緒ですか……、わかりました。

沖縄のしきたりでは、どんな解決策があるのか一緒に考えていきましょう。「体をバラバラにしてみました」と言えば、確かにそうですね。でも、専門的には、分骨という立派な作法ですので、32年前のことで自分自身を責める必要はありません。

その昔、印度(いんど)にゴータマ・ブッタという方がおられました。日本では、お釈迦さまと呼ばれています。ゴータマ・ブッタが亡くなられたとき、遺骨はサンスクリット語(印度の古語)の「sarira(シャリア・舍利(しゃり)＝亡骸(なきがら)」という語源から、人々は「仏舍利(ぶつしゃり)＝ブッタの遺骨」と言うようになりました。「仏舍利」はお釈迦さまを慕う弟子・部族などにより、やがて8分割→10分割と分骨されていきます。以来、人々もお釈迦さまの「仏舍利」の分骨にならい、形見分(かたみわ)けという意味から、大切な身内の遺骨を分

骨するようになったといえます。ちなみに、遺骨と同じ白色の白米のことも、サンスクリット語では「sari(シャリ・舍利)」といえます。日本では、寿司飯のことを粋な呼び方で「しゃり」といいますよね。さて、今回の相談ですが、今年、合骨(あいつ)する絶好のタイミングだと思います。合骨とは、合葬(がつそう)ともいい、別々の遺骨を一緒にすることをいいます。

合骨の種類には、ミートウンダーカーミー(夫婦合葬)、ウヤヌフチュクル(親の懐)、カーミーゲージ(骨壺返し)などがあります。

「ミートウンダーカーミー」は、夫婦の遺骨を一緒にすることをいいます。「ミートウンダー カーミーヌ チビティーチ(夫婦はグソ(仏の世界)でも一緒)」という格言から、「グソヌ ニービチ(仏の世界の結婚式)」ともいいます。

「ウヤヌフチュクル」とは、親子の遺骨を一緒にすることをいいます。数え年7歳未満(13歳未満の地域もある)のユース(幼少)の子どもを、お母さんの胎内に返す「シンダシ(血筋正し)」という作法から(お父さんの懐に返す地域もある)、「ウヤゲージ(親返し)」とも呼ばれます。「カーミーゲージ」とは、故人のカーミー(骨壺)に分骨した遺骨をウケエシ(お返し)することをいいます。

今回のTさんの場合は、カーミーゲージに該当しま

す。カーミーゲージも、ミートウンダーカーミー・ウヤヌフチュクルなどと同じ手順ですので、以下を参考にしていただけだと思います。

【合骨の手順】

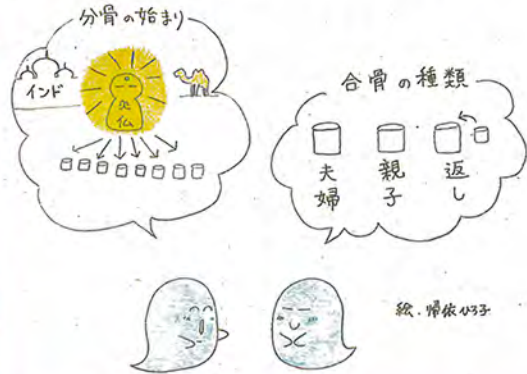
- 1 お墓を修理する当日、ウサギムン(お供え物)を準備して、ご住職の読経など、専門家のご供養を賜ります。
- 2 お墓の内部を修理する場合、ヒラチ(蓋石(ふたいし))をパール握りこぶしなどで3回ノックして、ゆっくりと開門します。
- 3 各カーミーを外に出して、お墓のウナー(御庭)にウンチケ(安置)します。
- 4 酒・海水・水などを使用し、カーミーをシンクチ(洗骨)します。
- 5 お父さんのカーミーの蓋を開けて、チュアルプニ(頭蓋骨)もシンクチします。
- 6 火葬の場合、チュアルプニが最上段にウンチケされていはいはすので、シンクチの途中、チュアルプニの下に分骨した(ポケットに入れた)遺骨を大切にウケエシします。
- 7 シンクチが終了したら、各カーミーにサン(グシチ)を抱かせて、お墓の修理が完成するまで、施工業者に二任します。

※4～6は、お墓の修理が完了後、再度、納骨するときでも可能です。

Tさん、今回は、合骨の好条件がそろっています。お父さんは、32年前にお亡くなりですから、今年、ウワイスーコー(終わり焼香)の三十三回

忌。これ以降は、シンクチが可能な期間です。また、今年はグングワチターチャー(旧暦閏(うるう)五月)のユンヂチ(閏月)でもあります。お墓の修理も、全島で多く行われるはずですが、しかも、Tさんは長男とのことですから、お墓の修理の依頼者、施主でもあるでしょう。いずれも、シンクチのとき、お墓の修理のとき、施主の判断としてお父さんのカーミーを開けること、遺骨をウケエシすることが可能になります。お父さんの遺骨は、多分、お葬式の収骨のとき、ポケットに入れたのでしょうか？

沖縄では、分骨の習慣が一般的でないので、タタリとかを耳にし、今日まで心苦しかったのでしよう。しかし、タタリには「多々あり」というプラス発想の考え方もあります。お父さんの遺骨を通じて、「多々ある」経験をされたTさんを、グソのお父さんは長男である後継者として、心強く思われていることでしょう。



帰依 龍照 1968年岡山県出身(満49歳) / 学歴: 岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒 / 専門分野: 哲学(宗教哲学) / 沖縄県内で年間多数の住宅起工式(地鎮祭)を担当しつつ、小学校～大学まで、いじめ・不登校・進学・就職に関する講演活動を行う / 著書: 『琉球・沖縄 儀式・法要事典 作法・心得編』県内有名書店にて発売中 / 最近、ホームページ <http://www.kozazankuyoji.com/> をリニューアルしました。

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q&A」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。